

JICA調査団とともにパラオ訪問

久米島モデルの展開に向けた現地対話



1月25日から28日の4日間、JICA社会基盤部の調査活動の一環として、久米島町や海洋深層水関連事業者、大学関係者がパラオ共和国を訪問しました。JICAは、久米島が進める海洋深層水を活用した地域づくり「久米島モデル」に注目し、令和5年1月の久米島視察を契機に調査を継続。今回の訪問では、これまでの成果を踏まえて、パラオでの久米島モデルの事業展開に向けた説明と、現地関係者からの賛同や助言を得ることを目的としたものです。

高い関心と前向きな反応

調査団には本町から中村副町長を含む8名が同行し、各所で意見交換や表敬訪問を実施。ウィップス大統領へ町長の親書を直接手渡し、趣旨を説明したところ、高い関心と前向きな反応が得られました。ほかにも、マルキョク州知事、国会議員、日本大使館やパラオコミュニティカレッジとの意見交換を通じ、久米島モデル展開への理解が深まりました。

パラオとの技術・文化的つながり

現地では、農業、水産養殖、再生可能エネルギー、商品開発などの分野でも調査を行い、技術交流の可能性が確認されました。久米島の取り組みは、島しょ

国であるパラオにとって参考になるとの声が多く寄せられました。また、ペリリュー島では久米島出身の故国吉昌則氏の墓参りも行い、歴史的なつながりへの理解を深めました。

今後の展望と国際的な期待

今回の訪問を機に、久米島モデルの国際展開に向けた一歩が踏み出されました。本町では現在、海洋温度差発電のスケールアップ実証に民間および大学と連携して取り組んでおり、太平洋島嶼国を中心に高い関心が寄せられています。今後も技術革新と連携の深化が期待されるとともに、本町における久米島モデルの進展に向けて取り組んでまいります。



マルキョク州知事との意見交換



パラオコミュニティカレッジとの意見交換



マルキョク州知事への親書



ウィップス大統領への親書



故国吉昌則氏の墓参り